

受け入れ

## 育英会への感謝

第九回生 キリメティヤネ・ヴィマラワンサ（スリランカ）

Vidiga Band Privena 校長・幼稚園長

私は、キリメティヤナ、ヴィデイ・アバンドオ・ビリヴェナのお寺で一九六六年、10歳のときに僧侶になりました。その寺には仏教学院があり、スリジャヤヤワルダナープラ大学に入學するまでそこで学びました。大學卒業後お寺に戻り學院の先生となり後に學院の校長になりました。

一九八九年に幸いなことに日本に行くことができました。杉浦さんのご援助で、特にスリランカの仏教を専門とするテラワダ（上座部仏教）の研究者として著名な愛知學院大學教授の前田惠學博士とお会いすることができました。前田先生のご尽力で愛知學院大學の大学院に入學することができ、先生のご指導でテラワダの瞑想と日本の禪の比較研究をすることになりました。

私は、まずスリランカで著名な仏教學者に会い話を訊きました。ほとんどの方に、Tripiṭaka

（ブッダの足跡を記した聖典）の文献を参考にする伝統的な方法で研究するようアドバイスされました。しかし、前田先生は、書物による研究は十分なものではなく、フィールドワークによる研究で、宗教の現状を理解することができると常に学生にアドバイスしていました。前田先生からはテラワダの国々を訪れ、瞑想センターといわれる所で、その国の瞑想の達人や学者に会い、瞑想についての見解や情報を得るようアドバイスをいただきました。

私は、スリランカ、ミャンマー、タイにおける瞑想の現在の状況を調査することになりました。渡航してフィールドワークするためには高額な費用が必要で学生にとっては大変難しいことでした。当時、横浜善光寺の黒田武志師は横浜善光寺留学僧育英会を設立されておられました。日本は世界でも物価の高い国でしたので、留学僧にとってこのような奨学制度は大変ありがたいものでした。前田先生は、この奨学金が受けられるよう、私を黒田師に推薦してくださいださり奨学金を受けることができました。そのお陰でフィールドワークができました。結果をまとめ、論文を書き、学位を得ることができました。黒田師と横浜善光寺留学僧育英会に大変感謝しております。さまざまな国の多くの留学僧が育英会の援助で学問を修め、今、仏教の普及に大きく寄与していることと思います。

私は、大学院を卒業後スリランカに帰り、仏教学院の校長を勤めました。また、前田先生の

ご尽力で、日本の皆様のご援助をいただき、私のお寺に幼稚園を設立することができました。また、二〇〇五年にスリランカは津波によって大きな被害をうけました。その時も日本からの援助で多くの被災者を救うことができました。私がスリランカで社会奉仕をする時には、黒田師にいつも支援していただきました。師がスリランカを訪ねられたとき、私の寺にも来てくださいました。その折に、私の寺が、地域の人々に役に立っている貢献をしていることを知り大変喜んでくださいました。その時、今までに師から得た多くのご支援助に報い、感謝する機会が持てたと大変嬉しく思いました。

横浜善光寺育英会には長い間留学僧に大きな貢献をしていただきました。30周年を迎えるにあたり感謝とともに祝い申し上げます。